

## 1. 教員養成版「専門職大学院」の狙い

### ①. 養成すべき人物像

- α. **facilitator/coordinator**……教科指導のリーダー的存在  
「教科主任」的イメージ
- β. **Manager**……教員集団を束ね・全体の切り回しを行うリーダー的存在
  - β1: 組織マネジメント 「校務主任」「教頭」or「校長」的イメージ
  - β2: カリキュラム・マネジメント 「教務主任」的イメージ
- γ. **care worker**……児童・生徒の個々の問題（主に教科外）に対処するエキスパート  
「生徒指導主任」的イメージ

### ②. 養成すべき資質・力量（→カリキュラムの柱）

- 「学校現場で求められるリーダー的役割」を担える人材
- ※リーダーシップを発揮すべき分野（上記のα・β・γ）に関して
  - (1) 事例に関する知識が豊富であること（→ [B] 事例研究）
  - (2) それらの事例を構造的・体系的に捉えることのできる知見を持つこと  
（→ [A] 基礎科目群＝背景的知識の確認・実践的座学）
  - (3) (1)(2)を踏まえて、現場の課題に実際に取り組むこと（→ [C] 実務修習）
  - (4) (1)～(3)を基に、今後の類似のケースに対応可能な力を養うこと  
（→ [D] 課題研究としてのまとめ）

### ③. 当面のカリキュラムの考え方

- 「2年間」「30単位＋課題研究」（計40～45単位）程度。
- ストレートマスターと現職経験者の区別（後者は実務修習的部分を軽減）
- これまで以上の、現場（小中高等学校）との緊密な関係を作る。
  - ※カリキュラム・コンテンツの部分に踏み込む（「役割分担」ではなく「協働」）
- 事例研究と長期の「実践体験＋省察」を基軸にする

## 2. 「スクールリーダー」養成のカリキュラム

- ①. カリキュラムの基本骨格＝4つのカテゴリーを設定。
  - [A] 教育実践基礎科目……基本的な問題（issue）の確認。講義中心。
  - [B] 教育実践事例研究……具体的な問題（problem）の事例研究。
  - [C] 教育実践実務修習……学校現場における実践への参与＋省察。週2日程度。
  - [D] 課題研究…… [C] を踏まえた課題研究レポートの作成。  
上記4カテゴリーの比率に関しては要検討。

②. 単位数・履修時期

[A] 1年次中心

講義 2 単位×5 科目選択必修 10 単位程度

[B] 1年次（前期・後期）中心。一部は2年次にも

演習 2 単位×6 科目選択必修 12 単位程度

[C] 2年次（前期・後期）

実習 8h×2 日×35w=560h 13 単位程度

※一定年限以上の現職経験を有する大学院生については軽減することも可。

[D] 2年次後期

10 単位程度

③. コンテンツのイメージ

[A]  $\alpha$ ・ $\beta 1$ ・ $\beta 2$ ・ $\gamma$  共通（選択必修）

教科書と教育課程	学習指導要領・教科書編成の現状に関する俯瞰
現代学校論	今の学校はどうなっているのか
カリキュラム編成の課題	「カリキュラムを作る」とはどういうことか
教育改革と学校	政策全体→教育改革→学校、の俯瞰
教育組織マネジメント論	組織マネジメント上の「学校」
教育問題と社会問題	何が「教育」問題で何が「社会」問題か
地域社会と教育	「地域」とは何か。その中の「学校」とは
比較教科教育論	各教科の特色、相克
教育人材論	教育に携わる多様な人材、その成り立ち・力量
学習障害の諸相	学びにおける「つまづき」の現れ方
臨床教育	教育における「臨床」とは

etc.

[B] 各学生の課題に応じて、ウエイトを変えた形の履修

B-1：教科カリキュラム事例研究科目群（主に $\alpha$ に対応）

- 〇〇科指導上の課題 各教科・各学年の指導における「つまづき」の事例研究
- 〇〇科カリキュラム編成 学校の実情に応じたカリキュラム作りの実践研究  
（学校単位・学年単位・教科単位・授業単位）
- カリキュラム編成と教員組織 教員の「協働」のあり方に関する事例研究  
（総合的な学習の時間への対応等も含め）

etc.

B-2：学校組織マネジメント事例研究科目群（主に $\beta 1$ に対応）

学校評価	計画・実施・改善
保護者・地域対応	PTA・地域社会の諸相
学校組織	校務分掌・教科組織（教科センター方式の実例など）
学校運営	運営協議会・労務管理・
学校事故・事件	危機管理・情報管理
学校行事	企画・運営・実施・評価

etc.

B-3：教育組織マネジメント事例研究科目群（主にβ2に対応）

教育計画（カリキュラム）づくり

習熟度別クラス編成

時間割編成（学校裁量／モジュール）

総合的な学習の時間

T T（部分実施・全体で実施／多様な形態

T A

etc.

B-4：教育臨床事例研究科目群（主にγに対応）

学習障害への対処

心のケア

進路指導

生徒指導

地域との関係

学校行事

etc.

※実践例（ワークショップ形式を含む）・判例・マスコミ報道例などの集中的検討  
その他、シミュレーション、ロールプレイなども適宜導入。

[C] テーマを絞った実務修習……各学生の課題に応じた学校での実務（週二日程度）

α：「教科主任」のもとで、教科カリキュラム編成・運営の実務に参画

β1：「教頭」のもとで、学校組織マネジメントの実務に参画

β2：「教務主任」のもとで、教育組織マネジメントの実務に参画

γ：「生徒指導主任」（or「進路指導主任」）のもとで、臨床的実務に参画

※大学の指導教員は当該校に出向き、当該校スタッフとともに指導にあたる。

（学生＋指導教員＋学校スタッフによるカンファレンスを行う）

※現職教員が校務の一部を行いながらの履修も可。

※実習学校を固定するか否かは要検討。

④. スタッフ／「実務家教員」のイメージ

大学教員（教科教育・教育経営・教育方法・カリキュラム研究・教育心理学等）

→ [A] ～ [D] 各群科目に対応。

[A] においては、学校現場の現実的諸課題に関わるレクチャー

[B] においてはワークショップのコーディネーター役

[C] においては実習を行う学校に出向いて検討に参与

[D] における課題研究とりまとめの指導

「実務家教員」（指導主事・教務主任・教頭・校長等のスクールリーダー）

→ [B] [C] 両群に対応。

[B] における事例の提供および検討のアドバイザー

[C] における実務実践・参画の指導

※ [C] の学校のスタッフをこれにあてることも可